

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	Society 5.0時代の看護研究に向けて
作成者（著者）	臼井, 雅美
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2022.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 5. p.1 1.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD42087999

Society 5.0時代の看護研究に向けて

学校法人東邦大学健康科学部
学部長 臼井 雅美

東邦大学健康科学ジャーナルは2021年度から医学に関する文献情報が蓄積された「医学中央雑誌」に掲載されるようになりました。いささか遅かった感はございますが、2018年6月発行誌より現在18件の論文が掲載されております。

現代社会の研究活動、とりわけ看護研究活動においては、2019年末から世界を脅威にさらしているCOVID-19感染症パンデミックの影響が多大了。日本看護科学学会の2020年の調査報告によれば、看護研究者の約8割強が研究活動をコロナ禍が阻害していると感じております（日本看護科学学会，2021）。研究活動の阻害要因として研究計画の実践履行の困難さや研究対象者および研究者双方の負担感の懸念などがあげられている一方、コロナ禍により文献検討や論文執筆など在宅での勤務により時間が割けること、遠隔での教育を進めざるを得ない状況からオンラインでのパラダイムシフトに研究の創造性につながるなどの促進要因などもあります。調査から2年経過した現在でもCOVID-19感染症は収束することなく、最近では変異したオミクロン株が猛威を振るっております。少しずつ研究活動もパラダイムシフトを検討しつつ実践できるようにはなりましたが、まだまだ難しい状況でもあります。

そのような中で、本ジャーナルに投稿して下さった皆様には心より感謝申し上げます。

現代社会は情報化社会と言われていたSociety 4.0時代から、現実のフィジカル空間と仮想のサイバー空間を高度に融合させ、技術革新やグローバル化がより一層進展するSociety 5.0時代を迎えております。現在、教育界において、文部科学省による「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」が進行中であり、初等中等教育段階では、「GIGAスクール構想」に基づき、小中学生1人1台端末と学校の高速度大容量の通信ネットワークの整備など、義務教育におけるICT化はますます進む状況です。

看護基礎教育においても、AIやIoT（Internet of Things）等のICT導入が急速に進むとともに、対象者の多様性、複雑性に対応できるよう、さらなる実践能力を育成するための基礎教育の検討が急務です。研究活動も同様に、ICTやビッグデータを有効的に活用し、創造性を育みながら研究マネジメント力を強化し、人間中心の社会に見合った活動が期待されております。今後、このコロナ禍に共存できるよう新しい視点に立って研究活動をしていくことが、我々に求められているのではないのでしょうか。

さらなる看護学および健康科学への発展に寄与できるよう、教育・研究に携わっていらっしゃる皆様の投稿をお待ちしております。

*日本看護科学学会（2021）：新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査

<https://www.jans.or.jp/uploads/files/committee/covid19chosa%20sokuho%2020200911rev%202.pdf>